

▼アボネックス筋注用 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 インターフェロンベータ-1a (遺伝子組換え) interferon beta-1a (genetical recombination) 【分類】 多発性硬化症治療薬 [インターフェロン製剤]

【単位】 ▼30 μ g/syr

【常用量】 1回30 μ gを週1回

【用法】 筋注 (投与ごとに注射部位を変える)

【透析患者への投与方法】 特に設定されていない (1) がおそらく減量の必要はない (5)

【保存期 CKD 患者への投与方法】 症状が悪化するおそれがあるので重篤な腎障害患者には慎重投与 (1) であるがおそらく減量の必要はない (5)

【特徴】 多発性硬化症の再発予防に適用されるインターフェロン製剤。

【主な副作用・毒性】 うつ、自殺企図、アナフィラキシー、血球減少、痙攣、心疾患、自己免疫障害、肝炎、間質性肺炎、敗血症、甲状腺機能異常、糖尿病、SJS、急性腎不全、脳出血、注射部位異常、筋肉痛、関節痛、発熱、消化器症状など多数

【tmax】 13hr [im] (1)

【代謝】 資料なし (1)

【排泄】 資料なし (1)

【CL】 0.17L/kg/hr [iv, animal model] (1)

【t1/2】 資料なし (1)

【蛋白結合率】 資料なし (1)

【Vd】 0.16L/kg [iv, animal model] (1)

【MW】 約25,300

【透析性】 資料なし (1)

【O/W 係数】

【相互作用】 小柴胡湯と併用禁忌 (1) CYP の活性低下作用があり注意 (1)

【肝障害患者への投与方法】

【小児 CKD 患者における報告】

【妊婦・授乳婦への投薬】

【主な臨床報告】

【更新日】 20160825

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院でいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。